

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP2005/023360

International filing date: 20 December 2005 (20.12.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-373023
Filing date: 24 December 2004 (24.12.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 09 February 2006 (09.02.2006)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 4 年 1 2 月 2 4 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 3 7 3 0 2 3

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 4 - 3 7 3 0 2 3

出 願 人
Applicant(s): ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー
株式会社吉野工業所

2 0 0 6 年 1 月 3 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中 嶋



【書類名】	特許願
【整理番号】	04-08-22
【提出日】	平成16年12月24日
【あて先】	特許庁長官 殿
【国際特許分類】	A45D 40/00
【発明者】	
【住所又は居所】	兵庫県西宮市高須町1丁目7-6-503
【氏名】	本田 太一
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内
【氏名】	小林 勉
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内
【氏名】	上村 英夫
【特許出願人】	
【識別番号】	592043805
【氏名又は名称】	ザ プロクター エンド ギャンブル カンパニー
【特許出願人】	
【識別番号】	000006909
【氏名又は名称】	株式会社 吉野工業所
【代理人】	
【識別番号】	100076598
【弁理士】	
【氏名又は名称】	渡辺 一豊
【電話番号】	03-3382-6771
【手数料の表示】	
【予納台帳番号】	009162
【納付金額】	16,000円
【提出物件の目録】	
【物件名】	特許請求の範囲 1
【物件名】	明細書 1
【物件名】	図面 1
【物件名】	要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

上端部に広口の口筒部(2)を起立設し、底壁(3)から中心軸に沿って支柱(6)を起立設し、周壁(4)から底壁(3)にかけての部分为基础端として、半径方向に内部を仕切る固定仕切り板(7)を設けた有底円筒状の容器本体(1)と、

前記支柱(6)に回動自在に外嵌する円筒状の軸筒片(12)を有し、該軸筒片(12)を基端として半径方向に前記固定仕切り板(7)に並置状に回動仕切り板(13)を設けた回転体(11)と、頂壁(32)の、上面を受皿状に形成し、下面から前記軸筒片(12)に上方から回動不能に嵌入する垂下軸(23)を垂下設し、前記口筒部(2)を蓋状に覆って、該口筒部(2)に回動自在に嵌合する有頂円筒状の蓋体(20)を有し、前記固定仕切り板(7)の先端面が前記軸筒片(12)に摺接し、前記回動仕切り板(13)の先端部分をへら状の軟質材料製摺動部材(14)で形成して、該摺動部材(14)が容器本体(1)の周壁(4)から底壁(3)にかけての部分に線接触状に摺接し、前記頂壁(32)下面が口筒部(2)、および固定仕切り板(7)の上端面に摺接し、回動仕切り板(13)の上端面に当接する構成とし、前記固定仕切り板(7)、回動仕切り板(13)、周壁(4)、底壁(3)、軸筒片(12)および頂壁(32)で収納室(R)を形成し、該収納室(R)に連通する吐出口(33)を頂壁(32)に開口し、前記容器本体(1)と蓋体(20)との相対回動により、固定仕切り板(7)と回動仕切り板(13)のなす中心角度を小さくして収納室(R)を減容し、内容物を圧迫し、吐出口(33)から頂壁(32)上に吐出する構成とした吐出容器。

【請求項 2】

頂壁(32)の下面がパッキン(42)を介して、口筒部(2)、および固定仕切り板(7)の上端面に摺接し、回動仕切り板(13)の上端面に当接する構成とした請求項 1 記載の吐出容器。

【請求項 3】

底板(22)を有する有底短円筒状の蓋部(21)と、中央に吐出口(33)を開口した頂板(32a)を受皿状に形成し、前記蓋部(21)に、上方から蓋状に覆って回動不能に密外嵌すると共に、容器本体(1)の上端部に回動自在に嵌合する有頂円筒状のキャップ部(31)から蓋体(20)を形成し、頂壁(32)を前記底板(22)と頂板(32a)の 2 重壁とし、底板(22)の下面中心から垂下軸(23)を垂下設し、該底板(22)周縁部に容器本体(1)内部に連通する流出孔(24)を開口し、前記底板(22)と頂板(32a)の間に流出孔(24)から吐出口(33)に至る流通路(25)を形成した請求項 1 または 2 記載の吐出容器。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 吐出容器

【技術分野】

【 0 0 0 1 】

本発明は、クリーム状の化粧品、医薬品等を適量吐出して使用される容器に関する。

【背景技術】

【 0 0 0 2 】

化粧品や医薬品に使用されるクリーム、軟膏、ゲル状の内容物を収納するものとして蓋を供えた広口壺状の容器が使用されている。この容器の場合使用者は指先で掬うようにして内容物を取り出すが、余分に取り出してしまったり、残った分を容器内に戻したりすることがあり、非衛生的でもあった。また、内容物が空気に直接接触れる面積が大きくなり、酸化等による品質の低下も懸念される。

【 0 0 0 3 】

上記のような、課題に関して特許文献 1 には、蓋体の回動操作により容器本体内の内容物を適量取り出すことのできる吐出容器が記載されている。容器本体内に一對の仕切り板を半径方向に並置配設し、容器本体と蓋体との相対的な回動によりこの仕切り板間の中心角度を狭め、仕切り板間に存在する内容物を圧迫し、蓋体の中央に開口した吐出口から、適量の内容物を吐出して使用するものである。

【特許文献 1】 実公昭 6 2 - 8 8 3 9 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 4 】

上記した特許文献 1 に記載された容器では、一對の仕切り板間で効果的に内容物に圧力を付加する必要があるが、たとえば仕切り板間での密閉性が十分でない場合には意図した両の内容物が吐出されなかったり、一方密閉性をあげようとする回動操作がスムーズでなくなる等の問題が発生する。

【 0 0 0 5 】

本発明は、このような回動機構を有した吐出容器にかかる問題点を解消するべく創案されたものであり、特には摺動性を損なうことなく仕切り板と容器本体との密閉性を向上させることを課題とし、もって使い勝手のさらに向上したクリーム状内容物の吐出容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

上記技術的課題を解決する本発明の内、請求項 1 記載の発明の手段は、
上端部に広口の口筒部を起立設し、底壁から中心軸に沿って支柱を起立設し、周壁から底壁にかけての部分为基础端として、半径方向に内部を仕切る固定仕切り板を設けた有底円筒状の容器本体を有すること、
前記支柱に回動自在に外嵌する円筒状の軸筒片を有し、この軸筒片を基礎端として半径方向に固定仕切り板に並置状に回動仕切り板を設けた回転体を有すること、
頂壁上面を受皿状に形成し、この頂壁下面から軸筒片に上方から回動不能に嵌入する垂下軸を垂下設し、口筒部を蓋状に覆ってこの口筒部に回動自在に嵌合する有頂円筒状の蓋体を有すること、
固定仕切り板の先端面が軸筒片に摺接し、回動仕切り板の先端部分をへら状の軟質材料製摺動部材で形成して、この摺動部材が容器本体の周壁から底壁にかけての部分に線接触状に摺接し、頂壁下面が口筒部、および固定仕切り板の上端面に摺接し、回動仕切り板の上端面に当接する構成とし、
固定仕切り板、回動仕切り板、周壁、底壁、軸筒片および頂壁で収納室を形成し、この収納室に連通する吐出口を頂壁に開口し、
容器本体と蓋体との相対回動により固定仕切り板と回動仕切り板のなす中心角度を小さくして収納室を減容し、内容物を圧迫し、吐出口から頂板上に吐出する構成とすること、

にある。

【 0 0 0 7 】

請求項 1 記載の容器は主として容器本体、回転体、および蓋体の 3 部材から構成され、回転体と蓋体は回転不能に組み付き、そしてこの両部材が容器本体と回転自在に組み付き固定する。そして容器本体内に付設され、容器本体を半径方向に仕切る固定仕切り板と、容器本体の周壁および底壁と、回転体の軸筒片および上記固定仕切り板に対して並置状に半径方向に付設される回転仕切り板と、蓋体の頂壁により内容物を収納する収納室が形成される。

【 0 0 0 8 】

また、固定仕切り板の先端面が軸筒片に摺接し、回転仕切り板の先端部分をへら状の軟質材料製摺動部材で形成し、この摺動部材が容器本体の周壁から底壁にかけての部分に線接触状に摺接し、頂壁下面が口筒部、および固定仕切り板の上端面に摺接し、回転仕切り板の上端面に当接する構成とすることにより、収納室は頂壁に開口した吐出口を除いて、クリーム状の内容物に関して略密閉状態とすることが可能となる。

【 0 0 0 9 】

そしてこの状態から容器本体と蓋体を相対的に回転することにより、半径方向に仕切る両仕切り板のなす中心角度を小さくするようにして、収納室を減容するようにすると、収納室内の内容物を圧迫し、吐出口から頂壁上に吐出することができる。

【 0 0 1 0 】

特に、回転仕切り板の先端部分をへら状の軟質材料製摺動部材で形成し、この摺動部材が容器本体の周壁から底壁にかけての部分に弾性変形しながら線接触状に摺接する構成とすることにより、摺動状態でこの摺動部材の先端部を容易に弾性変形させることができ、小さな抵抗で、確実に密閉性を保持しながら容器本体の内面形状に沿って摺動させることができ、スムーズな回転操作で適量の吐出量を確実に得ることができる。また、内容物を残すことなくきれいに容器本体内部から掻き取ることができ、無駄なく内容物を使用できる。

【 0 0 1 1 】

そして、一定の回転により略一定量の内容物を頂壁上に吐出し、この吐出された内容物を指で掬って使用することができ、容器本体内部に指を突っ込む必要もなく、指を必要以上に汚したりすることなく、衛生的に無駄なく便利に使用することができる。

【 0 0 1 2 】

なお、収納室が減容する際には、両仕切り板で区画される収納室と逆側の空間は減圧状態となるので、頂壁にこの逆側空間に連通する空気孔を空けておく。

【 0 0 1 3 】

請求項 2 記載の発明の手段は、請求項 1 記載の発明において、頂壁の下面がパッキンを介して、口筒部、および固定仕切り板の上端面に摺接し、回転仕切り板の上端面に当接する構成とすること、にある。

【 0 0 1 4 】

請求項 2 記載の上記構成により、収納室上部の密閉性をより確実に確保することができ、内容物が外部に漏れることもなく、より効果的に内容物の吐出を達成することができる。

【 0 0 1 5 】

請求項 3 記載の発明の手段は、請求項 1 または 2 記載の発明において、底板を有する有底短円筒状の蓋部と、中央に吐出口を開口した頂板を受皿状に形成し、蓋部に、上方から蓋状に覆って、回転不能に密外嵌すると共に、容器本体の上端部に回転自在に嵌合する有頂円筒状のキャップ部とから蓋体を形成すること、頂壁を底板と頂板の 2 重壁とし、底板の下面中心から垂下軸を垂下設し、底板の周縁部に容器本体内部に連通する流出孔を開口すること、底板と頂板の間に流出孔から吐出口に至る流通路を形成すること、にある。

【 0 0 1 6 】

請求項３記載の上記構成は、蓋体を蓋部とキャップ部の２部材から形成し、頂壁を底板と頂板の２重壁として、この二重壁の間に底板周縁部の流出孔から頂板中央の吐出口に至る流通路を形成することに特徴がある。底板の周縁部に流出孔を開口することにより、両仕切り板の相対的な回動では、周縁部におけるほど仕切り板の移動に係る線速度が大きく、素早く圧力が上昇し回動操作と略同時に内容物を流出孔、流通路を介して吐出口から吐出させることができる。

【発明の効果】

【００１７】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。請求項１記載の発明にあつては、特に、回動仕切り板の先端部分をへら状の軟質材料製摺動部材で形成することにより、小さな抵抗で、より確実に密閉性を保持しながら容器の内面形状に沿って摺動させることができ、スムーズな回動操作で適量の吐出量を容易にかつ確実に得ることができる。また、内容物を残すことなくきれいに容器本体内部から掻き取ることができ、無駄なく内容物を使用できる。

【００１８】

請求項２記載の発明にあつては、収納室上部の密閉性をより確実に確保することができ、内容物が外部に漏れることもなく、より効率的に内容物の吐出を達成することができる。

【００１９】

請求項３記載の発明にあつては、周縁部におけるほど仕切り板の移動に係る線速度が大きく、素早く圧力が上昇し回動操作と略同時に、内容物を流出孔、流通路を介して吐出口からタイムラグなく吐出させることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００２０】

以下、本発明の実施の形態を、図面を参照しながら説明する。図１～図４は本発明の吐出容器の第１実施例を示す。図１は図３（ａ）中のＡ－Ａ線に沿っての縦断面図であり、図２は分解して示す主要な部材の斜視図であり、図３は容器本体１と回転体１１を組み付けた状態を示す平面図であり、図３（ａ）は使用開始前の状態、（ｂ）は内容物を使い切った状態を示す。また図４は図３（ａ）中のＢ－Ｂ線に沿っての縦断面図である（但しオーバーキャップ４１を除いた状態）。

この容器の主たる構成部材はいずれも合成樹脂製であり、容器本体１、回転体１１、および蓋体２０であるが、蓋体２０は蓋部２１とキャップ部３１の２部材からなり、さらに蓋材２０の上からオーバーキャップ４１を被せる構成としている。

【００２１】

容器本体１は広口の口筒部２を有した有底円筒状であり、周壁４から底壁３にかけての部分を袴筒片１ａで外装している。袴筒片１ａで外装することにより机上等に安定して設置できるので、机上に置いた状態で片手で回動操作をすることもできる。また底壁３から中心軸に沿って円筒状の支柱６が起立設している。そして周壁４から底壁３にかけての部分を基端として、半径方向に内部を仕切る固定仕切り板７が付設されている。

【００２２】

回転体１１は、下端部が支柱６に回動自在に外嵌する円筒状の軸筒片１２を有し、この軸筒片１２を基端として全高さに亘って、回動仕切り板１３が付設されているが、本実施例では、この回動仕切り板１３は板片１３ａの先端部分に、へら状の軟質材料製の摺動部材１４を被せるようにして組み付き固定したものである。そしてこの摺動部材１４の側端から下側にかけての部分には先端を鋭角状にしたブレード１５を形成しており、容器本体１の周壁４から底壁３にかけての部分に線接触状にまた密接状に摺接するようにしている。

【００２３】

また、軸筒片１２の中央高さ位置には中底１２ａが付設され、上半分の内面には後述する蓋部２１の垂下軸２３が回動不能に嵌入するための縦条１６が形成されている。

【 0 0 2 4 】

蓋体 2 0 は蓋部 2 1 とキャップ部 3 1 の 2 部材からなるが、蓋部 2 1 は全体として有底短円筒状であり、底板 2 2 の下面から中心軸に沿って前記した軸筒片 1 2 の上端部に、縦溝 2 3 a により回転不能に嵌入する垂下軸 2 3 が垂下設されている。またこの底板 2 2 の周縁部に 1 ケの円形の流出孔 2 4 が形成されており、この流出孔 2 4 から中央にかけての部分に、この流出孔 2 4 を囲うようにして後述するキャップ部 3 1 の流路筒片 3 4 と共に内容物の流通路 2 5 を形成する細長長円短筒状の流路筒片 2 5 a が形成されている。また流出孔 2 4 の近くには吸気孔 2 6 が形成されている。

【 0 0 2 5 】

キャップ部 3 1 は有頂円筒状であり、頂板 3 2 a を受皿状に形成し、頂板 3 2 a 中央に吐出口 3 3 を開口し、頂板 3 2 a 下面には流路筒片 3 4 を垂下設している。またこのキャップ部 3 1 の下端部内周面には係止周条 3 5 が形成されている。

【 0 0 2 6 】

そして、この流路筒片 3 4 が前記流路筒片 2 5 a に液密状に嵌入して、キャップ部 3 1 と蓋部 2 1 が回転不能に組み付き固定して蓋体 2 0 を形成し、蓋体 2 0 はキャップ 3 1 の下端部内周面に形成した係止周条 3 5 を、容器本体 1 の口筒部 2 の嵌合周条 5 に乗り越え係止し、これにより口筒部 2 に回転自在に組み付き固定する。

【 0 0 2 7 】

図 1 はオーバーキャップ 4 1 を筒片 1 a の上端部の螺合部 8 に螺合組み付けした状態を示しており、さらにパッキン 4 3 も用いることにより、内容物の成分の揮散を防ぐことができる。

【 0 0 2 8 】

上記説明した部材を組み付けた状態での使用の態様を以下説明する。

図 1 および図 3 (a) は使用前の状態を示し、口筒部 2 の上端面にパッキン 4 2 を配設して容器本体 1 と回転体 1 1 と蓋体 2 0 を組み付けた状態である。この状態で、容器本体 1 の周壁 4 、底壁 3 、および固定仕切り板 7 と回転体 1 1 の軸筒片 1 2 および回転仕切り板 1 3 、および底板 2 2 (パッキン 4 2) で収納室 R (図 3 (a) 中でハッチングした部分) が形成されている。内容物はこの収納室 R に収納される。

【 0 0 2 9 】

またこの状態で、軟質材料製の摺動部材 1 4 の先端に形成されたブレード 1 5 が容器本体 1 の周壁 4 から側壁 3 にかけての部分に線接触状そして密閉状に摺接し、固定仕切り板 7 の先端は筒軸片 1 2 の外周面に摺接しており、収納室 R はパッキン 4 2 の作用も相俟ってクリーム状の内容物に対しては流出孔 2 4 を除いて略密閉状となる。

【 0 0 3 0 】

そして、図 3 (a) および (b) 中で 2 点鎖線で示すように、回転仕切り板 1 3 を挟んで蓋部 2 1 底板 2 2 の周縁部に流出孔 2 4 と吸気孔 2 6 が配設され、また、図 4 中の白抜き矢印で示されるように容器本体 1 内部から流出孔 2 4 および流通路 2 5 を経て吐出口 3 3 に至る内容物の流路が形成されている。

【 0 0 3 1 】

容器本体 1 に対して蓋体 2 0 を図 3 (a) 中の矢印方向に回転させると (勿論のことではあるが容器本体 1 と蓋体 2 0 は相対回転可能であり、蓋体 2 0 を固定して容器本体 1 を回転させることもできる。) 収納室 R を形成する両仕切り板 7 、 1 3 のなす中心角度が小さくなり、内容物が圧迫され、容器本体 1 内部から流出孔 2 4 および流通路 2 5 を経て、吐出口 3 3 から頂板 3 2 a 上に吐出される。一方内容物がなくなった部分には吸気孔 2 6 を通して外気が導入される。

【 0 0 3 2 】

ここで、両仕切り板 7 、 1 3 の相対的な回転では、容器本体 1 の周縁部におけるほど仕切り板の移動に係る線速度が大きく、底板 2 2 の周縁部に流出孔 2 4 を開口することにより、回転操作と略同時にすなわちタイムラグなく、内容物を流出孔 2 4 、流通路 2 5 を介して吐出口 3 3 から吐出させることができる。

【0033】

もちろん、蓋体20を有頂円筒状の1部材としてその頂壁32に吐出口33を開口し、さらに軸筒片12の上部および垂下軸23aに流出孔24を開口して、圧迫された内容物を頂壁32上に吐出させることもできるが、比較的粘度の高いあるいは粘弾性的な性質を有する内容物では本実施例のものに比べればタイムラグが生じる。

【0034】

図3(b)は、内容物を使い切った状態で、回動仕切り板13が略1周して固定仕切り板7と当接した状態を示す。この回動仕切り板13の回動にあたっては、軟質材料製の摺動部材14の先端に形成されたブレード15が容器本体1の周壁4から側壁3にかけての部分に弾性変形しながら線接触状に、そして密接状に摺動接するので、小さな抵抗でスムーズに回動操作をすることができ、適量の吐出量を容易にかつ確実に得ることができる。

【0035】

また、ブレード15で内容物を残すことなくきれいに容器本体1内面から掻き取ることができ、無駄なく内容物を使用できる。

【0036】

図5～図8は本発明の吐出容器の第2実施例を示すものである。図5は容器本体1とオーバーキャップ41とを分解して示す正面図であり、図6は図8中のC-C線に沿っての縦断面図であり、図7はオーバーキャップ41を外した状態を示す平面図であり、図8はさらに蓋体20を外した使用開始前の状態を示す平面図である。

【0037】

第1実施例同様この容器の主たる構成部材はいずれも合成樹脂製であり、容器本体1、回転体11および蓋体20であり、蓋材20の上からオーバーキャップ41を被せる構成としているが、以下主として第1実施例と異なる部分について説明する。

【0038】

本実施例では、第1実施例における容器本体1の袴筒片1aの替わりに別部材の外側底部1bを使用して、容器本体1を底部も含めて二重容器状としている。また回転体11を軸筒片12と回動仕切り板13を含めた一体成形品としている。また装飾性を高めるため、オーバーキャップ41の外側をさらにアルミニウム製のオーバーキャップカバー41aで、そしてキャップ部31の側壁を同じくアルミニウム製のキャップ部カバー31aで外装している。

【0039】

蓋体20は第1実施例同様、蓋部21とキャップ部31の2部材から構成されているが、蓋部21の底板22には1ケの長円形状の流出孔24が形成されており、この流出孔24の開口周縁部から嵌合短筒片27が起立設されている。一方キャップ部31の頂板32aの流出孔24に対向する位置に長円形状の吐出口33が開口されており、この吐出口33の開口周縁部から嵌合短筒片27に嵌入する嵌入短筒片36が垂下设されている。また頂板32aの上面には、吐出口33を囲うようにして大きな長円状の凹部32bが形成されている。

【0040】

そして蓋体20の回動により内容物は流出孔24を経て吐出口33から頂板32a上に吐出して、凹部32bに溜めるようにして使用することができる。

【0041】

なお、本発明は上記した実施例に限定されるものではない、たとえば、上記実施例では容器本体の胴部から底部にかけての部分に二重容器状としているが、使用目的に応じて通常の一重の容器状とすることもできる。また吐出口あるいは流出孔の位置も目的に合わせて選択することができる。

【産業上の利用可能性】

【0042】

本発明の吐出容器は上述したように、スムーズに蓋体を回動させることができると共に、内容物を無駄なく取り出すことができ化粧料、医薬品等の用途でのより幅広い展開が期

待できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 3 】

【図 1】 本発明の容器の第 1 実施例の縦断面図である。

【図 2】 図 1 の容器の主部材を分解して斜視図で示す説明図である。

【図 3】 図 1 の容器の容器本体と回転体を組み付けた状態を示す平面図であり、（ a ）は使用開始前の状態、（ b ）は内容物を使い切った状態を示す。

【図 4】 図 3 （ a ）中の B－B 線に沿って示す縦断面図である。

【図 5】 本発明の容器の第 2 実施例の容器本体とオーバーキャップとを分解して示す正面図である。

【図 6】 図 5 の容器の縦断面図である。

【図 7】 図 5 の容器でオーバーキャップを外した状態を示す平面図である。

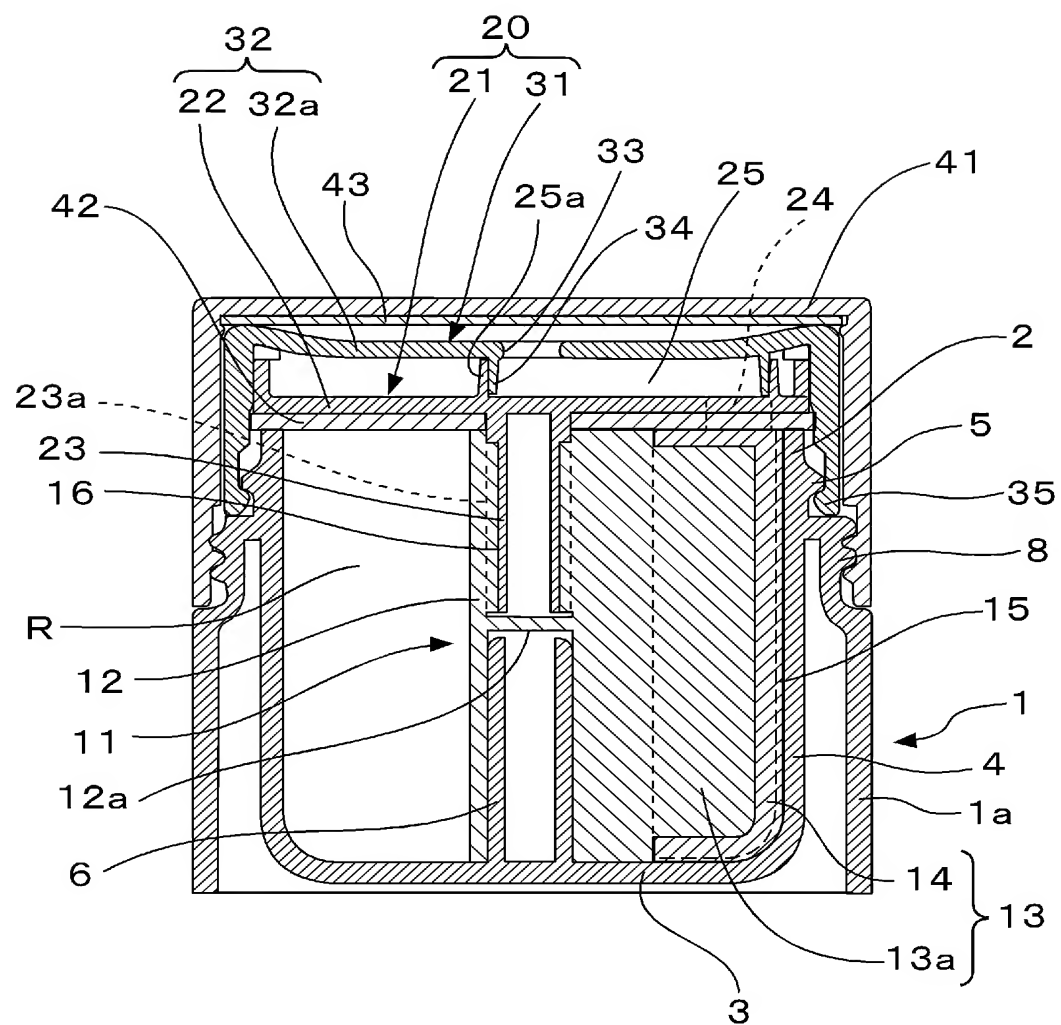
【図 8】 図 5 の容器でオーバーキャップと蓋体を外した使用開始前の状態を示す平面図である。

【符号の説明】

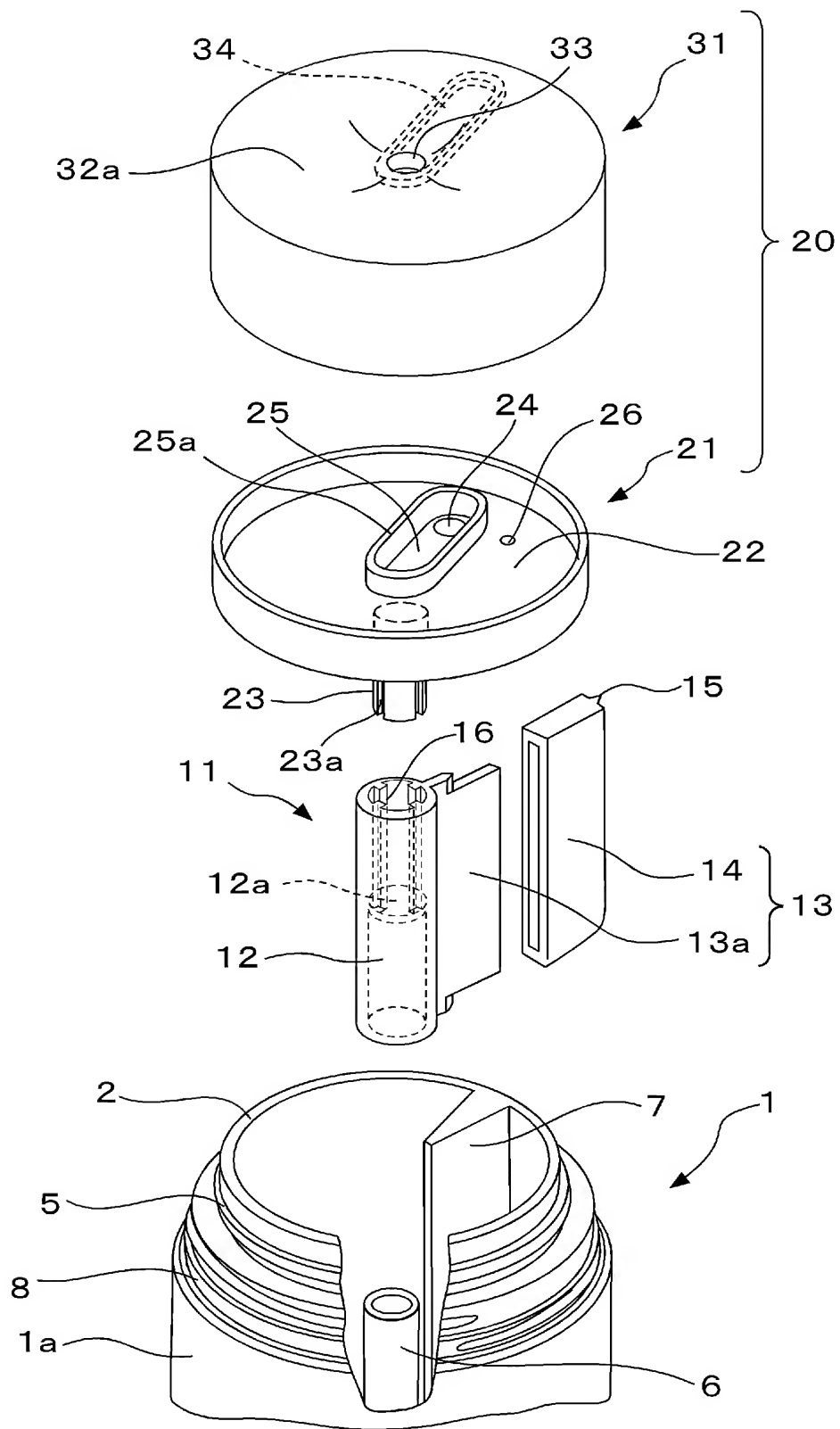
【 0 0 4 4 】

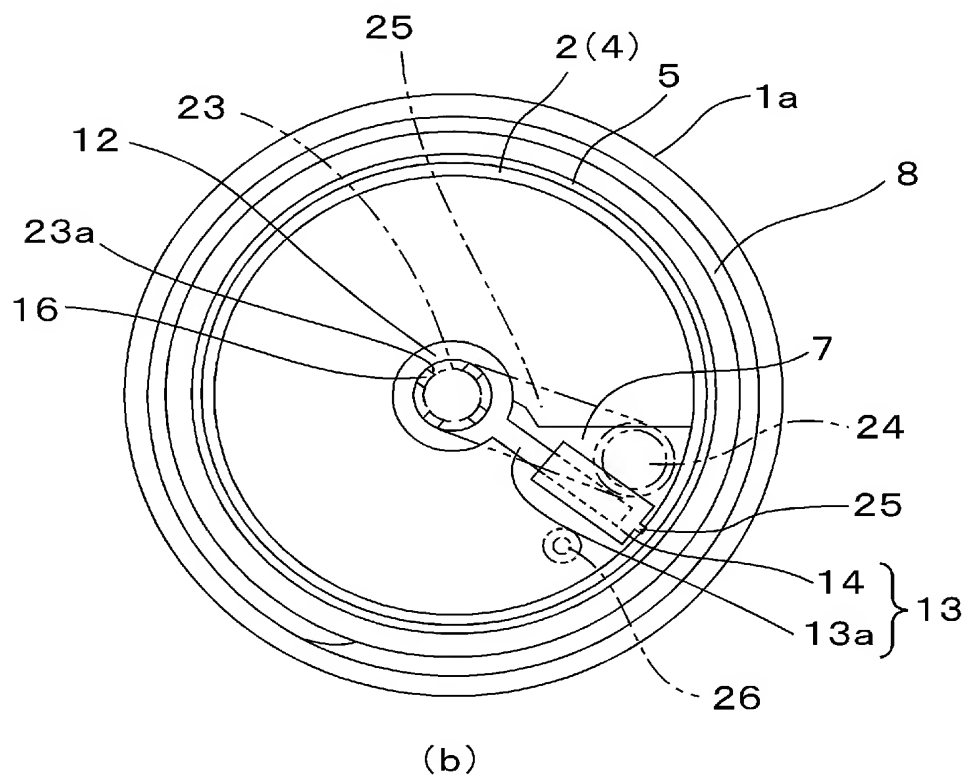
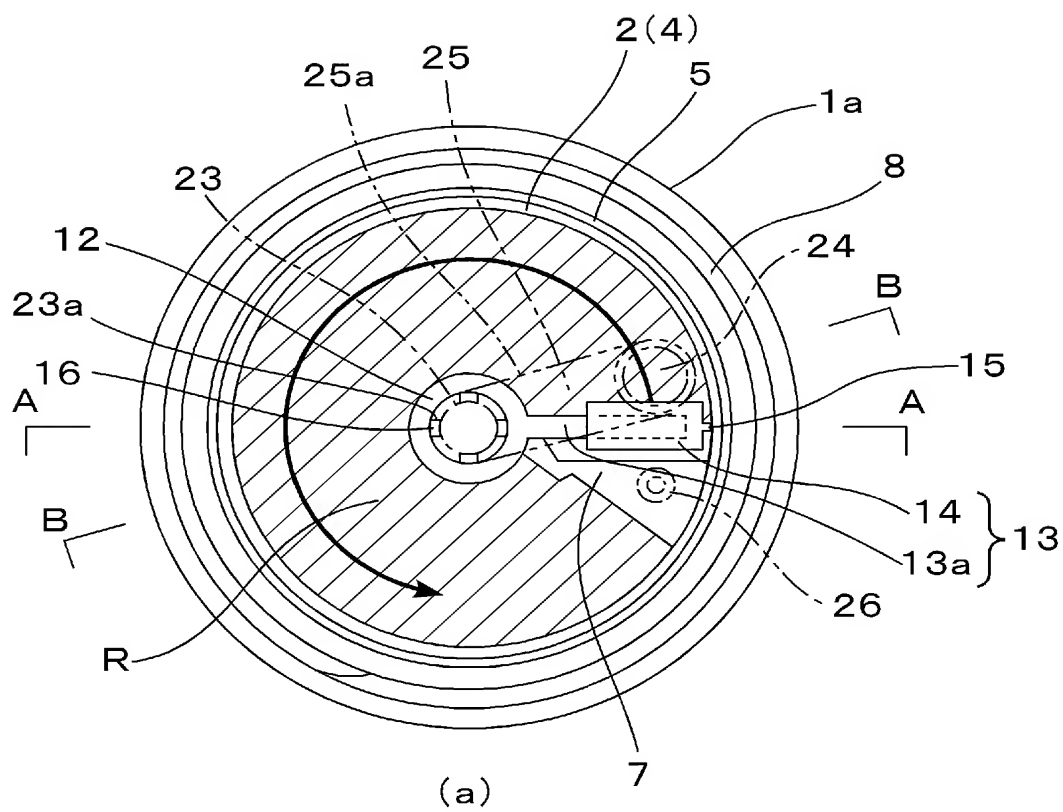
- 1 ; 容器本体
- 1 a ; 袴筒片
- 1 b ; 外側底部
- 2 ; 口筒部
- 3 ; 底壁
- 4 ; 周壁
- 5 ; 嵌合周条
- 6 ; 支柱
- 7 ; 固定仕切り板
- 8 ; 螺合部
- 1 1 ; 回転体
- 1 2 ; 軸筒片
- 1 2 a ; 中底
- 1 3 ; 回動仕切り板
- 1 3 a ; 板片
- 1 4 ; 摺動部材
- 1 5 ; ブレード
- 1 6 ; 縦条
- 2 0 ; 蓋体
- 2 1 ; 蓋部
- 2 2 ; 底板
- 2 3 ; 垂下軸
- 2 3 a ; 縦溝
- 2 4 ; 流出孔
- 2 5 ; 流通路
- 2 5 a ; 流路筒片
- 2 6 ; 吸気孔
- 2 7 ; 嵌合短筒片
- 3 1 ; キャップ部
- 3 1 a ; キャップ部カバー
- 3 2 ; 頂壁
- 3 2 a ; 頂板
- 3 2 b ; 凹部
- 3 3 ; 吐出口

3 4 ; 流路垂下筒片
3 5 ; 係止周条
3 6 ; 嵌込短筒片
4 1 ; オーバーキャップ
4 1 a ; オーバーキャップカバー
4 2 ; バッキン
4 3 ; バッキン
R ; 収納室

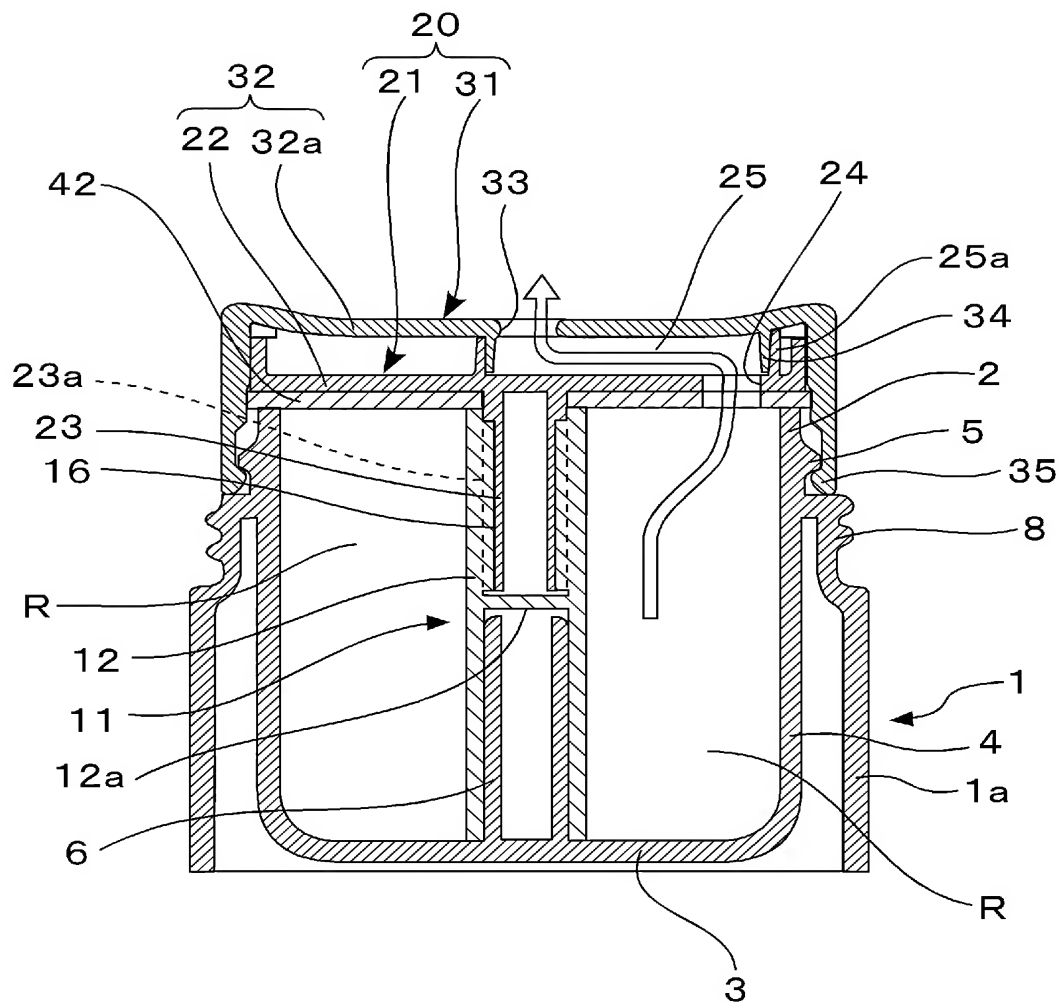


【図 2】

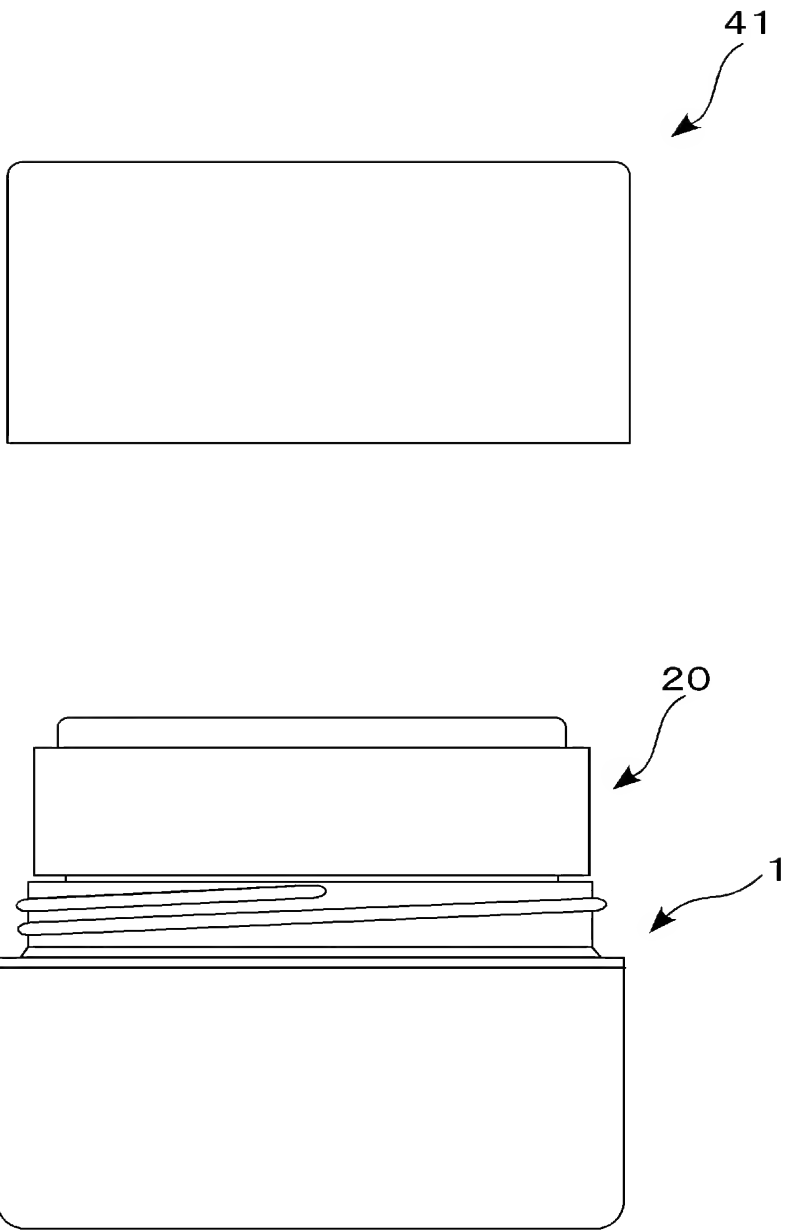




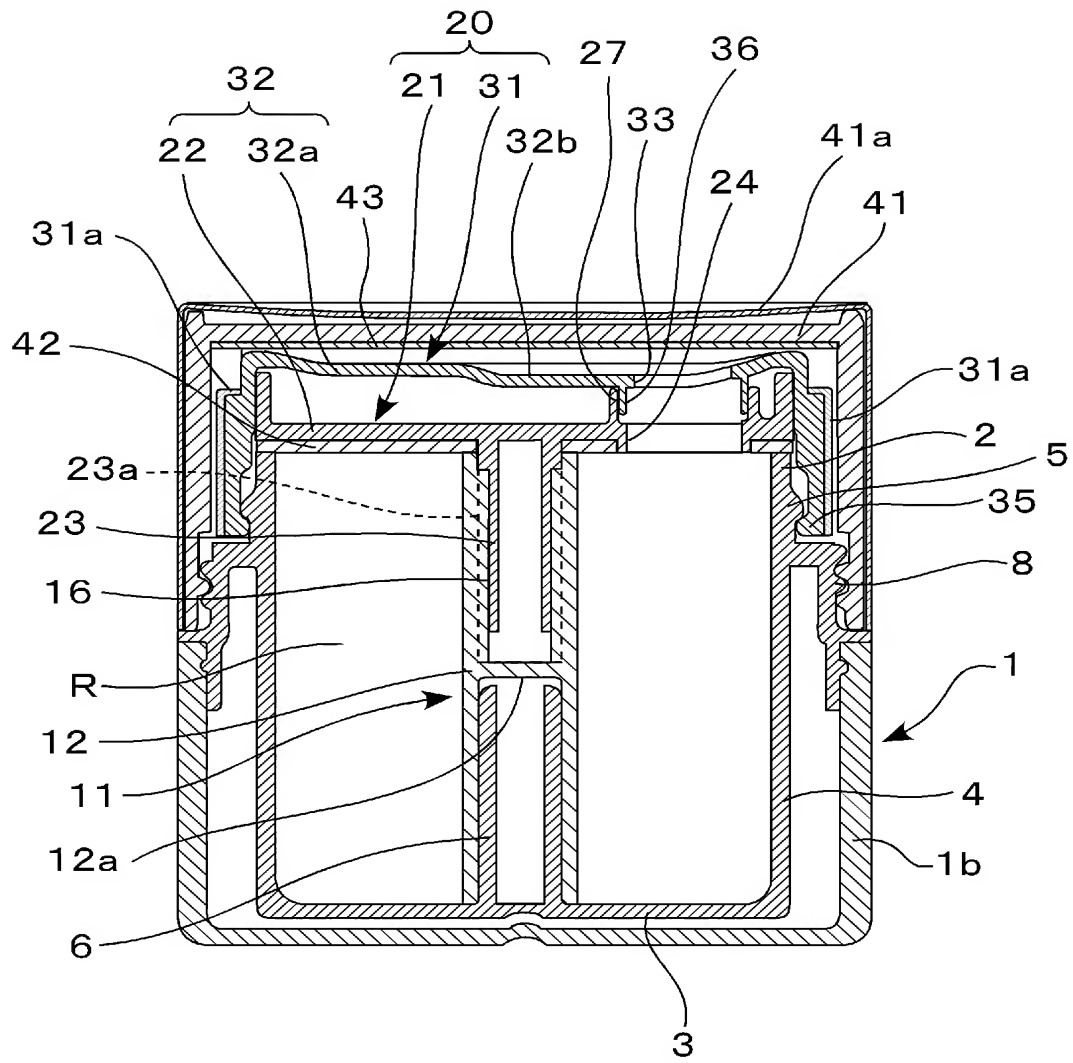
【図 4】



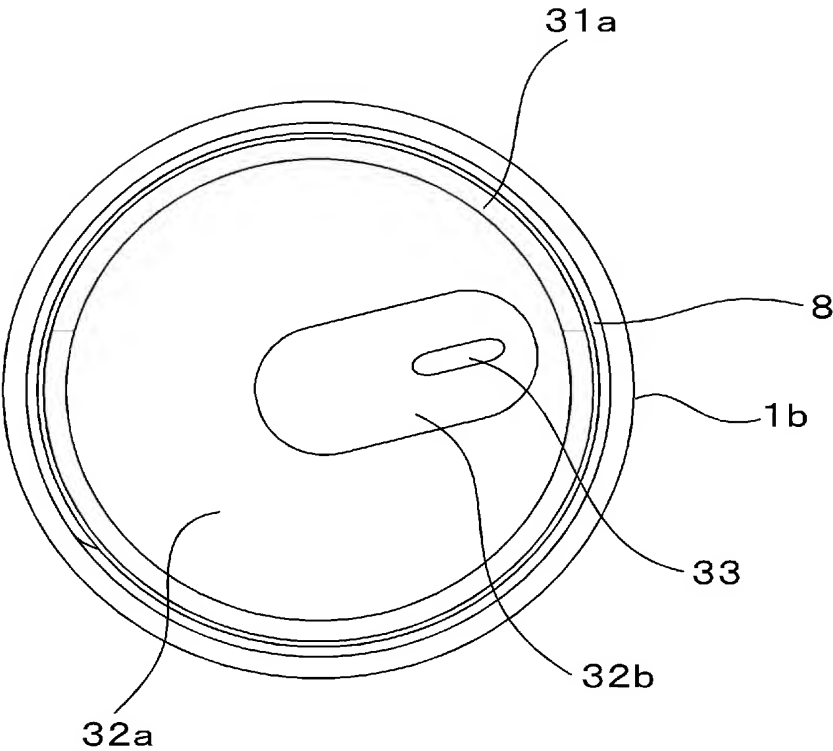
【図 5】

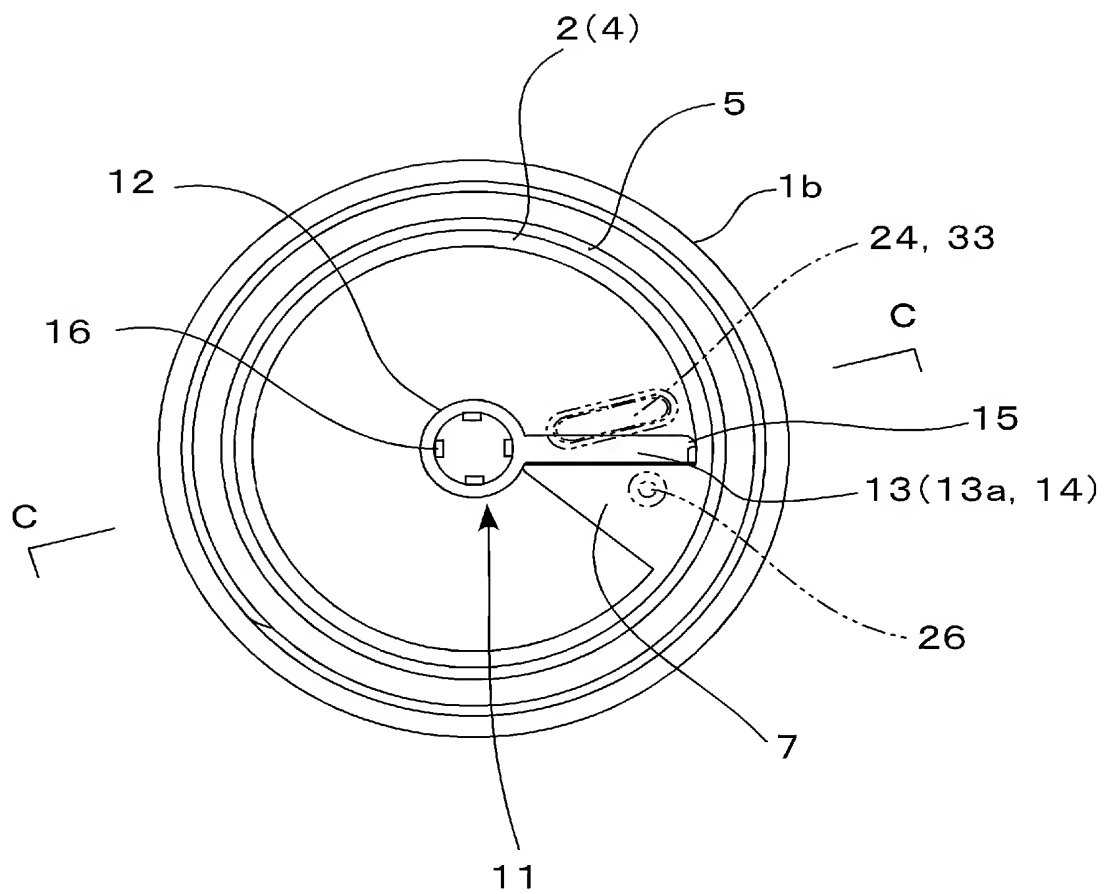


【図 6】



【図 7】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 摺動性を損なうことなく仕切り板と容器本体との密閉性を向上させることを課題とし、もって使い勝手のさらに向上したクリーム状内容物の吐出容器を提供することを目的とする。

【解決手段】 吐出容器において、底壁から中心軸に沿って支柱を起立設し、周壁から底壁にかけての部分为基础端として、半径方向に内部を仕切る固定仕切り板を設けた有底円筒状の容器本体と、前記支柱に回動自在に外嵌する円筒状の軸筒片を有し、この軸筒片を基礎端として半径方向に固定仕切り板に並置状に回動仕切り板を設けた回転体と、頂壁上面を受皿状に形成し、この頂壁下面から軸筒片に上方から回動不能に嵌入する垂下軸を垂下設し、口筒部を蓋状に覆って回動自在に嵌合する有頂円筒状の蓋体を有し、固定仕切り板の先端面が軸筒片に摺接し、回動仕切り板の先端部分をへら状の軟質材料製摺動部材で形成して容器本体の周壁から底壁にかけての部分に線接触状に摺接し、頂壁下面が、口筒部および固定仕切り板の上端面に摺接し、回動仕切り板の上端面に当接する構成とし、容器本体と蓋体との相対回動により内容物を圧迫し、頂壁に形成した吐出口から吐出する構成とする。

【選択図】

図 1

出願人履歴

5 9 2 0 4 3 8 0 5

20040511

名称変更

5 9 6 0 5 2 3 5 9

5 9 0 0 0 5 0 5 8

アメリカ合衆国オハイオ州，シンシナティー，ワン プロクター
アンド ギャンブル プラザ（番地なし）

ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

5 9 2 0 4 3 8 0 5

19970417

識別番号の統合による抹消

5 9 6 0 5 2 3 5 9

5 9 0 0 0 5 0 5 8

アメリカ合衆国オハイオ州，シンシナティー，ワン プロクター
アンド ギャンブル プラザ（番地なし）

ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

0 0 0 0 0 6 9 0 9

19900823

新規登録

東京都江東区大島3丁目2番6号
株式会社吉野工業所